



佐野日本大学短期大学学報

か た く り



ACCREDITED
2012

本学は平成24年度(助)短期大学基準協会による第三者評価の結果、適格と認定されました。

発行/佐野日本大学短期大学 栃木県佐野市高萩町1297 電話(0283)21-1200



年 頭 の ご 挨拶

激変の時代に
世界で活躍する力を

理事長・学園長 浦田 奨

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのことと存じます。また今年も本学園に対し、格段のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

「人生 100 年時代」の到来が叫ばれる中、現在日本は超少子高齢・人口減少社会を迎えています。

国立社会保障・人口問題研究所の将来推計では日本の総人口は 2030 年に 1 億 1,662 万人、2060 年には 8,674 万人にまで減少し、深刻な労働力不足が懸念されています。

そこで期待されているのが ICT や AI 等の技術革新です。介護者の負担を軽減しそれを受ける側の自立支援にも貢献する介護ロボットの導入、モバイル端末での温度・湿度や生育状況を把握しながら水遣り・農薬散布・除草・収穫などを GPS 搭載ロボットが行う「スマート農業」、ロボットが淹れたてのコーヒーを提供する無人カフェの登場など、ICT や IoT、AI やロボティクスの急速な進歩によって、多くの雇用が機械によって代替すると言われています。

高度な先進技術の導入であらゆる課題が解決されていくソサエティ 5.0（超スマート社会）の到来は、物理的な距離がコミュニケーションの阻害要因とはならない世界を実現し、現在急速に進むグローバル化もさらに加速していくものと予想されます。社会経済の仕組みも国境を越えて大きく変容し、業種、業態、時間、組織、性別などの線引きを消してしまうボーダーレス化が一層激しく進行します。私たちの生活そのものが一変する世界は目前まできているのです。

このような時代を迎え、私たち学校教育に携わる者は大きな意識改革を求められます。本学園はこれまで、「自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく」という、日

本大学の教育理念「自主創造」の精神に基づき、学生・生徒の主体的に生きる力を養う教育を実践してきました。今後はこのような高度情報化・国際化の時代に対応すべく、これまでの ICT 教育の推進に加え、留学制度と国際交流活動のさらなる充実をはかってまいります。短期大学ではこの4月に「留学支援センター」を設置し、地域の高校生が日本での単位を修得しつつ留学できるよう支援していきます。また現在、学園はイギリス・オーストリア・マレーシア・中国・アメリカの 5 か国 7 校と姉妹校・交流校として交流活動を行っていますが、次年度はハンガリーの学校とも短期大学と高等学校が姉妹校提携を結びます。さらに日本の伝統文化をしっかりと身につける教育を行うことで、自国に誇りを持ち、グローバルな視点で異文化を深く理解できる力を養っていきます。そしてこのような教育を通して、本学園で学んだ若者たちが、将来日本はもとより国際社会で活躍できる「真の国際人」として、大きく世界に羽ばたいていけるよう職員一丸となって努力する所存です。

最後になりましたが、皆様の一年が希望に満ちたすばらしいものとなることを祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。



年 頭 の ご 挨拶



花のように

学 長 佐藤 三武朗

新春の太陽が大地を染め上げ、大自然の躍動する光景を目の当たりすると、私たちの心も躍ります。

新しい年を迎えるに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

皆さんは、ご家族の皆様と共に、健やかな新年をお迎えになったことと思います。私も、家族と一緒に、山の端に昇る太陽に向かって、手を合わせ、無病息災を祈りました。昨今、少子化をめぐって、大学や社会の未来に厳しい目が向けられています。平穏な日々が続くようにと、私は幾度も手を合わせました。

本学を見下ろすように聳える、みかも山、そして春の色合いを濃くする美しいキャンパスの庭先には、早咲きの水仙の花が、蕾を付けています。寒い冬を耐え、命の輝きを、私たちの前に繰り広げる日が近づいています。

花のように生きようと、私は考えました。冬の寒さを耐えて咲く花は、さわやかです。寂しさや悲しさを堪えて咲き誇る花は、感動的です。どんな花でもいい。一輪の素朴な花でいい。私は、自分という小さな花を、精一杯咲かせて見せようと思います。

私が生きる上でお手本となるのは、日本大学を創設

した山田顕義先生です。先生は、吉田松蔭が開いた松下村塾で、最後の弟子と言われています。志を高く掲げて生きようという松蔭の言葉を座右の銘として、生涯を送りました。「自主創造の精神」として、今は定着しています。自主創造の精神とは、他人に頼ることなく、自ら学び、予見し、行動する精神と考えて良いと思います。学祖は、動乱の幕末から明治維新期にあって、日本の近代化に命を捧げます。近代国家の建設には、近代法に根ざした社会と、若者の教育こそ重要と考え、明治22年に日本大学の前身である「日本法律学校」を創設しました。また、苦勞の末に、民法と商法を編纂しました。その甲斐あって、我が国は念願であった、不平等条約の改正に漕ぎつけました。

学祖の生涯は、花のようであったと、私は思います。辛い冬を耐え、先人の知恵である大地の滋養をたっぷり吸収して、季節の訪れと共に、謳歌爛漫のごとく、青春の命を躍動させたのです。

新年を迎えて、学生諸君も学祖のように、志を高く掲げ、春を飾る香り豊かな花のように咲き誇って欲しいと願っています。



オレンジリボン運動で虐待防止推進キャンペーン！

「オレンジリボン運動」とは、児童虐待防止推進運動のことです。社会福祉士・介護福祉士フィールドの学生は、虐待のない素敵な社会をつくらうとの思いから、この運動を道の駅どまんなかたぬま、佐野市役所、イオンモール佐野新都市の市内 3ヶ所で実施しました。今年度は、手作りオレンジリボンの配布の他、子どもを守るためのメッセージコーナーを設けたり、人気ソングを手話で披露したりと、サノタンならではの活動を行いました。お子さんやご家族、さのまるなど、多くの方が参加してくださり、楽しみながら虐待防止を呼び掛けることができました。



クリスマスワークショップ

12月8日(土)、佐野市にある「道の駅どまんなか たぬま」にて、子どもフィールドの学生 23 名と教職員 6 名がクリスマスワークショップを開き、クリスマスに向けてのリース作りをお手伝いしました。

参加して下さった皆さまは、学生と一緒にツタの輪に思いの装飾をして、オリジナルのリースを作り上げて、家族でほめ合ったり、記念撮影をしたりしていました。

参加された皆さまからは「素敵なイベントをありがとうございました」「学生さんがとても上手に対応してくださって、楽しかったです」といった言葉をいただきました。子どもたちをはじめ皆さまの笑顔が、学生にとっても一足早いクリスマスプレゼントになりました。



Instagramで佐野の観光を宣伝!

観光ホスピタリティフィールドの2年生科目「地域観光論」では、佐野市観光立市推進課と共働し、佐野市の魅力をアピールするためにInstagramを活用した観光宣伝活動を行っています。学生は4つのグループに分かれ、それぞれテーマを決め、佐野のグルメや歴史・文化・自然景観等の取材を行い、学生独自の感性で佐野市のさまざまな魅力をアピールしようと取り組んでいます。たくさんのフォロワーから「イネ」をいただき、より多くの人たちが佐野市に遊びに来よう、これからも頑張っていきます。



学友会主催 クリスマスイベント

12月17日(月)～19日(水)の昼休み、学友会が企画したクリスマスイベントが行われました。サンタクロースに扮した学生が登場すると歓声が上がります。そして、サンタクロースに「メリークリスマス!」と元気に声をかけると、素敵なプレゼントが!!プレゼントを手にした学生は大喜びでした。



サノタン本の虫アワード2018 表彰式

受賞者が以下の通り決定し、11月15日(木)に表彰式を行いました。

受賞おめでとうございます。



【読書感想文】

最優秀賞 大野 香織

「15歳のコーヒー屋さん」を
読んで

優秀賞 増山 亜美

『万引き』なくては存在出来なかった家族

優秀賞 原 陽菜 「少女ポリアナ」

優秀賞 横倉 未来 サマーウォーズ



学長と学生との懇談

学長と学生との懇談が、11月2日(金)から始まりました。学長は、できるだけ多くの学生とお話する機会を設け、学生の考えや、思い、アイデア、時には悩みや相談等も聴いて、よりよいサノタンを創っていこうと考えています。

今回は、まず最初に学友会の5名が、それぞれ学友会の立場やまた個人として、サノタンの良さや学校側への要望など、忌憚のない意見を学長に聴いていただきました。なかなか話す機会がなく、とても有意義な時間を過ごせたようです。この企画は今後も続き、各フィールドの学生が学長と懇談していく予定です。



ハンドベル演奏会

医療事務・メンタルヘルスフィールドの「音楽セラピーⅠ・Ⅱ」の受講者 47 名が、新小山市民病院（小山市）、本庄記念病院（足利市）、特別養護老人ホームさんもくせい（佐野市）にて、ハンドベルとトーンチャイムの演奏を披露しました。クリスマスの時期に相応しいクリスマスソングや高齢者も喜ぶ懐かしい曲を演奏し、音楽の持つ“癒しの力”を実際に現場で学びました。



【学生の感想】

練習では不安になることもありましたが、本番はとても良い音色を奏でることができたと思います。演奏を聴いてくれた方から「素敵な音でしたね」と言われて、とても嬉しかったです。

JA 佐野農業祭り

栄養士フィールドでは、食品加工技術を習得し製造販売を行うこと、地域に貢献することを目的として「菓子製造の営業許可」を取得しました。今回は、11月10日（土）・11日（日）にアグリタウンで開催されたJA佐野農業祭りに出店し、「さのたんマドレーヌ」を販売しました。マドレーヌはプレーンのほかに、自分たちが学内の農園で育てたさつまいもを使用したマドレーヌも販売し好評を得ました。

外部の方への製造・販売は形状や衛生面などで細心の注意が必要となりますが、授業では感じることでできない地域住民の方々とのふれあい、多様な食のイベントを肌で感じることができ、有意義な活動となりました。



学報編集委員

久保 由佳、大塚 登、岡泉 志のぶ、藤田 睦、古川 貴子、田村 田、石井 寿雄、水島 優樹